

積雪や凍結路面に係る救急事故に注意！

毎年12月から3月までの期間に、積雪や凍結路面により滑って転倒するなどの救急事故が多くなります。

平成30年12月から平成31年¹⁾3月までの間に、東京消防庁管内²⁾で33人が救急搬送されています。



1) 平成31年は暫定値

2) 東京都のうち稲城市、島しょ地区を除く地域

積雪や凍結路面での救急事故を防ぐために

- 靴は滑りにくいものを選びましょう。
- 足元に十分気を配りゆっくりと歩きましょう。
- 降雪後の数日間は、事故が多いことから、特に注意を払いましょう。
- 天候は事前に情報収集し残雪や凍結路面を避け、余裕を持って行動しましょう。

1 積雪や凍結路面に係る救急搬送人員

過去5年間で1,337人が救急搬送されており、そのうち9割以上の1,265人が「ころぶ」事故により救急搬送されています。

積雪の多かった平成29年12月から平成30年3月までが、895人と救急搬送が最も多く、降雪がなかった平成28年12月から平成29年3月までが、14人と救急搬送が最も少なくなっており、降雪の有無によって救急搬送人員が大きく変化しています（図1）。

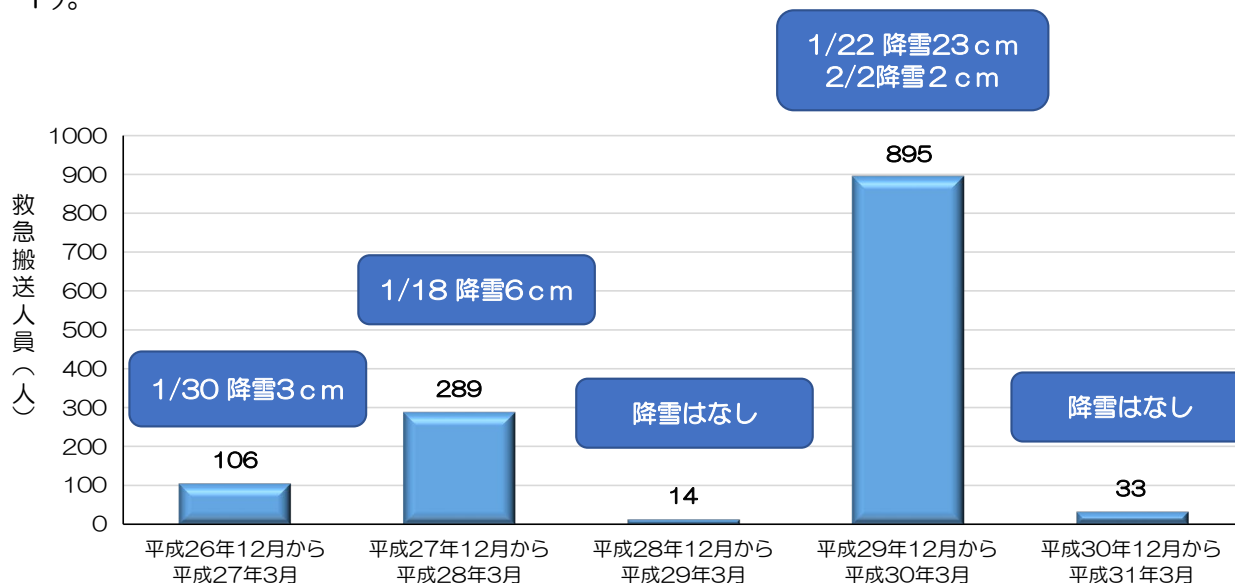


図1 積雪や凍結路面に係る救急搬送人員

2 月別の救急搬送人員

月別に見ると1月が1,201人、次いで2月が112人と多くっており、搬送人員が過去5年間で最も多かったのは、平成30年1月の846人です（表1）。

	12月	1月	2月	3月	合計
平成26年12月から 平成27年3月	13人	59人	33人	1人	106人
平成27年12月から 平成28年3月	0人	283人	6人	0人	289人
平成28年12月から 平成29年3月	4人	6人	4人	0人	14人
平成29年12月から 平成30年3月	4人	846人	43人	2人	895人
平成30年12月から 平成31年3月	0人	7人	26人	0人	33人
合計	21人	1,201人	112人	3人	1,337人

表1 月別の救急搬送人員（人）

3 気象状況と救急搬送人員の関係

救急搬送人員の最も多かった平成30年1月について、気象状況³⁾と救急搬送人員の関係をみると、22日に降雪があり、降雪後の数日間は路面凍結などの理由により1月だけで834人が救急搬送されています（図2）。

3) 気象庁の気象統計情報の東京で観測・測定した数値を使用

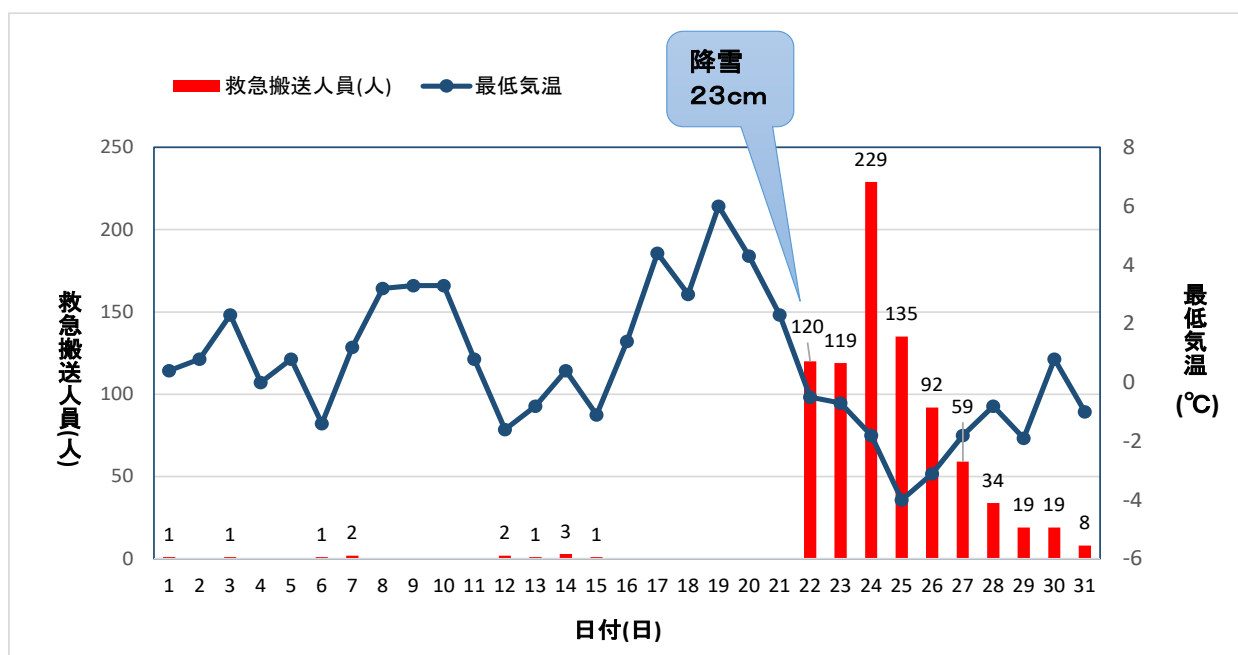


図2 気象状況と救急搬送人員（平成30年1月）

4 年齢層別救急搬送人員

年齢層（5歳単位）別に見ると、65歳から69歳が148人と最も多く救急搬送されています（図3）。

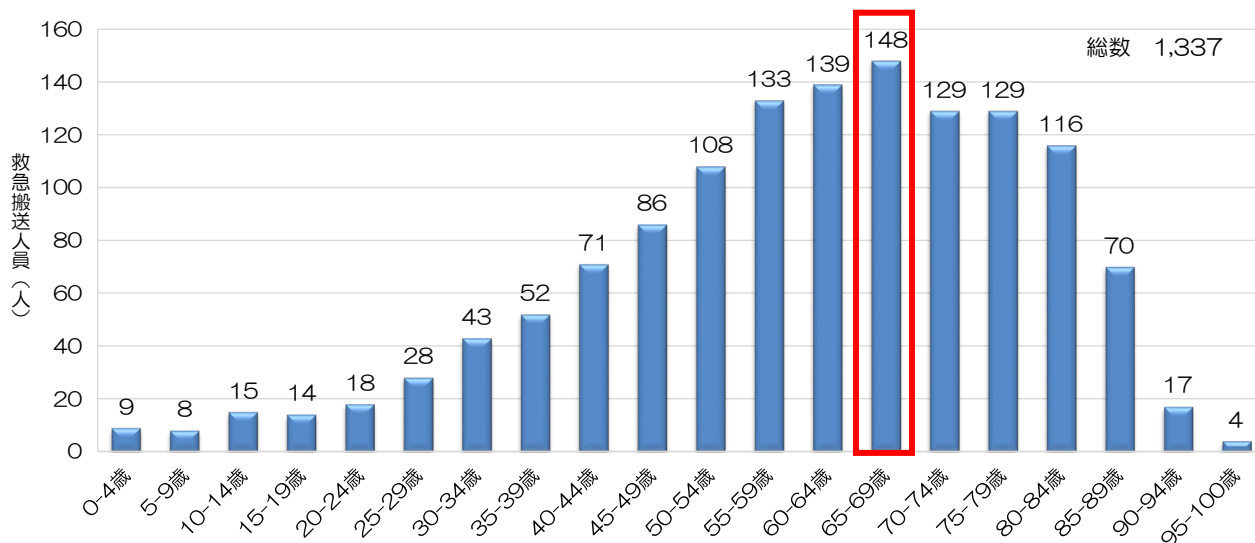
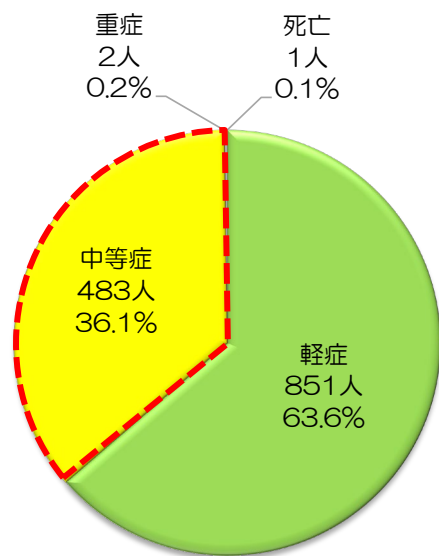


図3 年齢層別救急搬送人員（過去5年）

5 初診時程度別救急搬送人員

初診時程度別に見ると、約4割が中等症以上と診断されています（図4）。



【初診時程度】
 軽 症：入院を要しないもの
 中等症：生命の危険はないが入院を要するもの
 重 症：生命の危険が強いと認められたもの
 死 亡：初診時に死亡が確認されたもの

図4 初診時程度別救急搬送人員（過去5年）

6 事故事例

外出中にバランスを崩して・・・

凍結している路上を歩行中に、滑って転倒し膝を受傷した。(60代 中等症)

雪かき中に・・・

駐車場の除雪作業中に、滑って転倒し歩行困難となった。(70代 中等症)

屋根の雪下ろし中に・・・

雪下ろしのため、自宅の2階に梯子を架けて作業していたところ、1～2メートルの高さから転落した。(70代 中等症)